

第一回「地域連携推進会議」議事録

開催日 2025年1月27日月曜日10時～12時

場 所 グループホームすずらん（戸田市上戸田4-14-18-401）

参加者 戸田市障害福祉課職員・保護者（ご兄弟）・成年後見人弁護士・相談支援事業所
相談支援員2名・株式会社ブルースター代表取締役・グループホーム管理者

内 容

- 1, 参加者の自己紹介
- 2, 地域連携推進会議の目的・地域連携委員の役割について説明（別紙参照）
- 3, 【議事次第】に沿って進行を行う
 - すずらん在住の方の特性について
虐待案件の方が多いことを初めて知りました
日常生活支援・精神的な支援（病院同行）などの大変さを知りましたとの意見。
「区分調査」の医師意見書について。精神科以外でも問題ないという情報あり。
 - マンション内では音や挨拶など日常的に気をつけているためか、他の住民からの苦情はありません。他の住民の方が利用者さんを怖がるような話も聞いていません。
皆さんエレベーター内で会った時には挨拶を交わしてくださる方が多いです。
 - 『BCP』について
初めて耳にする方もいたため丁寧に説明する。実際問題として10名それぞれの障がいのある方を体育館などに移動して避難生活を行うことの困難さを伝える。
⇒来年度は全てコピーしなくても良いが、「BCP」の冊子を見ながら話を聞きたいとの意見あり。
 - 利用者さんの参加について
本来であれば「利用者参加」をすることと国からの資料には載っているが、当ホームの利用者の7割が被虐待児者であったため、人前で話すこと、大人の中で話すことをトラウマとしている人ばかりである。そうすると毎年同じ人が参加することになるなど、色々と検討事項があったため今回利用者は不参加とした旨を説明。
 - 経営状況⇒コロナ禍では大変な時期もあったがここへきて三事業合わせるとプラスになりつつある。
 - 支援者の様子としてスタッフ研修について
夜勤を伴う方がいるので全員参加を強制したりできない。また県主催などの研修に参加することも難しかったりするので会社として、様々な研修を提供している。
トラウマを抱えている利用者さんも多いためスタッフのメンタルケアも会社として大切な支援者支援であると考えている。（デンマーク研修・COMHCa研修など）

4. 感想

『Aさん』利用者さんがきちんと生活できているのだということがよくわかりました。BCPの内容に関しても次回はもう少しオープンにできる部分を書面等で開示してもらい共有したい。災害が起きた時にグループホームの方はホームで生きていくことになる可能性が高いという現実を知りました。

『Bさん』こういった説明会のような会議があると実態がよくわかるので、このような機会は今後も大事にしたいと思った。

『Cさん』ホームの利用者さんの名前はよく聞いていたが、どんな人なのか全くわからない。可能であるならば次回は写真などを見ながら話を聞いてみたい。

『Dさん』愛情を持って接していることがわかる。知らないことがたくさんあると感じた

『Eさん』モニタリングでは分からないことも明確になった。情報共有はいつも助かっているので今後ともよろしくお願いします。

5. 課題

水害・震災時の避難対象であるグループホームすずらん。現実としては、災害が起きても体育館などの避難所に行くことは想定されておらず、ホームにて生きていく。

【文責：花岡加奈】